

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	岡林 春雄	所属	山梨大学・大学院
研究集会等名称	公益社団法人日本心理学会 ダイナミカルシステム研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 15 名 (うち認定心理士 2 名)</p> <p>非会員 3 名 (うち認定心理士 0 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等</p> <p>本研究会は、心理学の新しい発想を切り開くダイナミカルシステム (生きている力動性のあるシステム) という視点から人間心理を探究することを目的に結成されたものである。</p> <p>1. 今年度は、日本心理学会第 78 回大会 (於 同志社大学) において、シンポジウム SS-030 “科学的に「生きている」を考える：指尖脈波を指標としたダイナミカルシステムアプローチ” を行った。</p> <p>企画代表・司会：岡林、 話題提供 : 雄山、鈴木 指定討論 : 千野</p> <p>会場いっぱいの参加者 (延べ人数：60) のもと、活発な議論がなされたが、他分野の方もいらっしやっており、今、心理学を含めて物理学、化学、生物学等々の科学分野で、「生きているとは？」といった根本的な問題が話題になっていることがわかった。心理学でも「生きているとは？」という根底的な話題をしっかりとらえておかないと、人間の心理は静的 (static) で、ゆらぎのない状態が理想だといったホメオスタシスの恒常性がすべてだという考え方が定着してしまうといった危惧が討論された。ゆらぎのない、恒常性が支配するのは、「死んでいる」状態に他ならない。ゆらぎは、単なる誤差ではない。</p> <p>2. 上記、シンポの前に、関連分野の数理物理・構造科学専門の島 弘幸准教授 (外部講師) を招き、「自然界でのリズム現象の解析と指尖脈波におけるターケンスの埋め込み」についての研究会を行った (7 月 28 日 於 KKR 甲府)。この会への参加者 10 人、ほとんどが上記シンポに顔を出してくれた。</p> <p>3. 「人間関係を動作から解析する：ダイナミカルシステムズアプローチ」と題して、木島章文准教授 (身体運動学、知覚運動制御と学習：外部講師) にデモンストレーションを含めて話をしていただいた (3 月 20 日)。</p> <p>今後、リズムにともなうゆらぎがどのように作用するのか、散逸構造論 (Prigogine 等) を含めて理論とエビデンスから追究したいと考えている。</p>		

2015年 3 月 20 日

日本心理学会研究会 2014 年度会計報告書

研究会名称 公益社団法人日本心理学会 ダイナミカルシステム研究会

研究会番号 研 14006

助成金額 ¥30,000

年 月 日	項 目	金 額
2014年7月28日	講師謝礼	¥11,000
2015年3月20日	講師謝礼	¥20,000
支出合計		<u>¥31,000</u>